

痛みに関する 2 剤の変遷 (アセトアミノフェンとアーティカインを中心として)

日本大学歯学部歯科麻酔学講座
見 崎 徹

全ての歯科治療の目的は除痛、咬合回復、審美の3つに集約されると思います。このうち私の専門分野である麻酔、全身管理に関わるのは主に除痛、鎮痛です。今回は代表的な鎮痛薬であるアセトアミノフェンと日本では使用されていませんが、比較的新しい歯科用局所麻酔薬であるアーティカインに関する歴史的変遷について紹介させていただきます。

アセトアミノフェンは昭和 30 年 (1955) 2 月 20 日「カロナール錠」として発売が開始されましたが、主成分はアセトアミノフェンではなく、1 錠中、アセトアニリド 200 mg、カフェイン 50 mg、重炭酸ナトリウム (炭酸水素ナトリウム) 100 mg でした。

その後、昭和 32 年 (1957) 1 月 10 日、アセトアミノフェンの原末 (調剤用) が「ピリナジン」(山之内) の販売名で発売されました。昭和 33 年

(1958) 7 月 20 日に「強力カロナール錠」が発売されましたが、日本で初めて発売されたアセトアミノフェン製剤だったので「先発品」と位置づけられています。1 錠中、アセトアミノフェン 200 mg、カフェイン 30 mg が主成分でした。昭和 63 年 (1988) に「歯科用強力カロナール O 錠」が発売され、1 錠中、アセトアミノフェン 200 mg が含有されていました。

その後にガン性疼痛の治療薬として用いられたり、用量・用法の変遷を経て今日に至っています。

一方、アーティカインは 1969 年に開発された歯科用局所麻酔薬で、当初はヨーロッパで使われ、その後にカナダ、米国でも使われています。リドカインに類似した性質を有する薬剤ですが有用性が高いことから欧米諸国では広く使われており、今後、日本でも発売の可能性が高まってきていることから変遷について紹介させていただきます。